

壁紙施工要領書

- パルプロック -

【該当品番】（2013－2017WD）

LY－14752、14754

■特長

- ・紙の原料であるパルプを粒状にし、表面に振りまいた商品です。

■下地調整

- ・施工後の、下地の不陸の目立ちを避けるために、下地はできるだけ平滑に仕上げるようにしてください。
- ・下地と同色の樹脂入りのパテを使用してください。強度の弱いパテはハガレの原因になります。
- ・湿式工法による下地（コンクリート、モルタルなど）や、パテ・シーラーを施した場所は十分に乾燥（水分 11%以下）していることを確認してください。未乾燥状態での施工は壁紙の変色、かびの発生を招くことがあります。
- ・接着性の悪い下地（ケイカル板、粉吹き下地、ペンキ下地、化粧板など）には必ずシーラーを塗布してください。下地を補強し壁紙のハガレ、目開きを防ぎます。

■接着剤

- ・接着剤は原液タイプをお薦めします。希釈タイプ使用の場合は、糊：水＝10：6～7 にエチレン酢ビ系ボンドを 10～20%程度を目安に混合してください。（このエチレン酢ビ系のボンドを混合しますと、接着剤の乾燥が早まりアイハギの発生時間も早くなりますので注意が必要になります。）
- ・濃度の薄い接着剤は糊が紙に吸い込まれてしまい、接着力が落ちる他に、壁紙を余計に伸ばして後の目開きの原因にもなります。
- ・粘りの強い接着剤を使用すると、糊溜まりの原因になりやすいので注意してください。
- ・壁紙表面に接着剤をつけたまま放置しますと変色の原因になりますので、ただちに拭き取るようにしてください。

■養生・オープンタイム

- ・オープンタイムをあまりとらずに施工しますと、表面層の剥離、割れ等が発生し非常に施工しにくくなります。水分を含むと材料が軟化しますので、接着剤塗布後は、うませ時間を 10～15 分程度、施工可能期間 30 分以内を目安に作業を進めてください。また、冬期時及び寒冷地ではうませ時間を長めにとってください。
- ・タタミジワを防ぐため、糊付け後は必ず大きくたたんで上積みは避けてください。

■なで付け・ジョイント

- ・ジョイントは突き付け施工にて行なってください。重ね断ち施工にて行なう場合は、必ず下敷きを使用し、下地まで切らないようにしてください。
- ・ジョイントが目立ちやすいので、カッターは薄刃の物を使用し、こまめに替えて常に鋭利な状態で使用してください。
- ・糊付け後、張り出す際に材料の破損に注意してください。水分を吸って強度が低下した裏打ち紙が壁紙の重量に耐えられなくなるためです。
- ・表面の粒子が取れやすい傾向にありますので、なで付けは柔らかい刷毛を使い丁寧におこなってください。ローラーはウレタン製の物を使用してください。
- ・復元力がないので、表面形状のつぶれやツヤ、折れ目や折れジワについては、十分に注意してください。
- ・壁紙表面に水や接着剤が付着すると変色の原因にもなります。付着した場合は直ちに拭き取るようにしてください。
- ・吸水性の低い下地（シーラー塗布面、化粧板、等）では、あと伸びによるフクレが発生することがあります。なで残しのないように繰り返し何度もエア抜きをおこなってください。

■施工後

- ・施工後は、外気や冷暖房などによる急激な室温の変化を避けるようにしてください。目開きやハガレ等の原因になります。